

パートナーズ協定を新たに締結 森林保全活動を継続して実施

株式会社オンワードホールディングス

株式会社オンワードホールディングス（本社…東京都中央区代表取締役社長…保元道宣）は、環境活動の一環として、高知県が推進する「協働の森づくり事業」について、高知県、高知市、および高知市森林組合と4期目となるパートナーズ協定を5月16日（水）に締結した。

これにより、引き続き2021年まで「土佐山 オンワード 虹の森」の森林保全活動を行うこととなった。

オンワードグループは、生活文化企業として豊かな生活づくりに貢献するとともに、「地球環境の保全」を経営の重要課題として捉え、人と環境に優しい企業を目指しているという。そうした背景から、『この地球（ほし）を想う。この服をまとう。』を環境コンセプトとして定め、ファッションを基軸とした様々な企業活動を通じて「地球と、世界の人々との共生」を目指したチャレンジを続けている。

長く着られる高品質な衣料品を提供することはもちろんのこと、例えば、環境への負荷を低減する最先端の技術や商品・サービスの開発、



「環境先進企業との協働の森づくり事業」パートナーズ協定締結式

出席者：左から高橋 英雄高知市森林組合代表理事組合長、岡崎 誠也高知市長、廣内 武オンワードホールディングス代表取締役会長、尾崎 正直高知県知事

使用済みの同社の衣料品をユーザーから引き取り、可能な限りリユース・リサイクルをすることで衣料品循環システムの構築を目指す「オン

ワード・グリーン・キャンペーン」の実施や、社屋の省エネ化などさまざまな環境活動に取り組んでいる。「協働の森づくり事業」は、日本一

高知県が推進する「協働の森づくり事業」 「土佐山 オンワード“虹の森”」の 4期12年間にわたり活動を展開



「土佐山 オンワード“虹の森”」協定森林に掲げられた看板

の森林率(84%)を誇る高知県で、企業と地域が協働して「森林の再生」と「地域との交流」を柱とした取り組みを行うことにより、持続可能な森林の再生と地域住民との活発な交流を目指すもので、オンワードは、2008年11月にアパレル業界として初のパートナーズ協定を締結。協定森林(1・2期約45ヘクタール、3期約69ヘクタール)を「土佐山 オンワード“虹の森”」と名づけて、地域住民の協力のもと、オンワード社員による間伐を始めた森林保全活動を3期約9年にわたり行つて

きた。

今回は、協定期間の満了にともない、新たに3年間の協定を締結。協定森林の面積も約80ヘクタールに広げ、引き続き同森林の保全活動を行うとともに、地域住民との交流の場としても活用していくという。また

同社は、『環境・社会貢献』をコンセプトにした「オンワード・リユースパーク」を東京・吉祥寺で運営しており、同店舗で使用するハンガーや椅子、レジカウンター、文房具などに高知県産の間伐材が使用されている。

■協定の概要

協定者＝高知県／高知市／高知市森林組合／

株式会社オンワードホールディングス

協定森林の名称＝「土佐山 オンワード“虹の森”」

協定森林の所在地＝高知県高知市土佐山東川イボ瀧 1172-1 他

協定森林の面積＝約80ha

協定期間＝2018年4月1日から2021年3月31日まで(3年間)

協賛金額＝総額300万円

「環境先進企業との協働の森づくり事業」パートナーズ協定締結式 開催概要

日時：2018年5月16日(水曜日)11時45分より

会場：高知県庁本庁舎2階第1応接室

締結式出席者：

尾崎 正直 高知県知事

岡崎 誠也 高知市長

高橋 英雄 高知市森林組合代表理事組合長

廣内 武 オンワードホールディングス代表取締役会長